

22 The Boston Come-All-Ye

1. この歌の時代背景

この歌のオリジナルは、“Blow Ye Winds In The Morning ” で、時に“The Boston Come-All-Ye”(Come all you bold Americans, a-whalin' for to go のフレーズで始まる)と呼ばれるそうです。しかし、この二つの歌詞は内容がかなり異なっていて、私達の手元にある“The Boston Come-All-Ye”のヴァージョンは、むしろ“Song Of The Fishes ”や“The Fish Of The Sea ”の名で知られる、シャンティと大変よく似ています。

その“The Fish Of The Sea ”について、Shanties from Seven Seas の著者であるスタン・ヒューギルは、これはキャプスタン・シャンティで、元々はスコットランドの漁夫の歌として始まったのだと解説しています。更に、アメリカの北東部マサチューセッツ州にあるグロスターと言う港町でも、この歌は当時、大変流行ったと語っています。

内容は、一人の漁船の船長が若い船乗り達を集めて、彼等の前で海の魚の歌を歌って聞かせ、海で働く楽しさを宣伝したものです。登場する魚たちが擬人化されていてコミカルです。又、船乗り達は、歌詞にムツ、うなぎ、鯨、平目など、さまざまな魚を登場させ、必要なだけ歌の長さを調節しながら、歌ったようです。

件の“Blow Ye Winds In The Morning ”の方には、冒頭に捕鯨に繰り出す500人の勇敢なアメリカ人達を集めるために、ボストン、ニューヨーク、バッファローにおいて宣伝した際の歌であることが記されています。

従って、“The Boston Come-All-Ye ”(来たれ、すべてのボストンの男達よ)も、この題名から推察できるように、捕鯨船員を集めるために歌われたものと思われます。

因みに、ボストンはマサチューセッツ州の州都であると同時に、周辺にニュー・ベッドフォード、ケープコッド、ナンタケット、ロードアイランド等、当時の代表的な捕鯨基地を有していた為、多くの人が集まる格好の場所でした。前述のグロスターも又、ボストンのやや北に位置する港町であったことを考えると、この歌がこの場所で流行ったのも納得できそうです。

註) 1. The Boston Come-All-Ye の Ye は、You の意。

2. Blow Ye Winds の Ye は、古英語で The の意。

2. この歌の日本語訳

(コーラス)

更に、風は西へ、西へと吹いている、
私達は南の方へ向かっているところ、船が安定した航行をするように、
ラ、ラ、ラ、

さあ、君たち若い船乗り達よ、私の云うことを聞いてくれ、
私は君たちに魚の歌を歌って聞かせよう、

(コーラス)

おお、最初は鯨のお出まだ、魚の中で一番大きな奴よ、
奴はマストのてっぺんに登って、帆という帆をみんな下ろさせた。

(コーラス)

お次はサバの登場だ、背中に縞のある奴よ、
こいつは帆脚索を船尾の方へ引っ張って、間切りした、

(コーラス)

それからイルカの登場だ、短い鼻ズラをした奴よ、
こいつは舵輪の所へ行って、“上手回し、用意！”なんて命令した、

(コーラス)

おお、お次はワカサギの登場だ、魚の中で一番小さな奴よ、
奴は船尾楼に飛び上がったと思ったら、“トップセールを引け！”を
大声で歌い出した、

(コーラス)

註) 間切り：風を斜めに受けて、船を風上にやること。

解説・日本語訳：宮崎多加雄

帆船日本丸男声合唱団用資料

冊 5-065